

## 5.12 景 観

### 5.12. 1 現況調査

#### (1) 調査内容

事業計画地周辺における景観の状況を把握するため、現地調査を実施した。調査内容は表 5-12-1 に示すとおりである。

調査範囲は、事業計画及び周辺地形等の状況から、事業計画地を中心とする半径約 3 km の範囲とした。また、主要眺望地点から事業計画地方向の景観写真撮影(一眼レフデジタルカメラ、28mm レンズを使用)を実施した。

表 5-12-1 調査内容

調査対象項目	調査対象範囲・地点	調査対象期間	調査方法
地域の景観特性	事業計画地周辺地域	適 宜	現地踏査
主要眺望地点からの景観の状況	主要眺望地点 : 10 地点	平成 20 年 10 月 21 日 12 月 19 日	現地調査 主要眺望地点から事業 計画地方向の景観写真 撮影を実施

#### (2) 調査結果

##### 地域景観の特性

「大阪市景観計画」(大阪市、平成 29 年 3 月変更)では、市域全体が 基本届出区域と 重点届出区域により構成される景観計画区域に定められている。事業計画地は、地域固有の特性をいかした重点的な景観形成方を展開するエリアとして 重点届出区域の「四つ橋筋地区」に位置しており、四つ橋筋地区の景観形成方針として、「ビジネス街としての落ち着きがあり緑豊かな街路景観の形成」「緑豊かなうまいある街路景観の形成」「地域の特性に応じた夜間景観の形成」が掲げられている。

また、事業計画地周辺には大規模な業務施設、商業施設、宿泊施設等が多数立地した都市景観が形成されている。

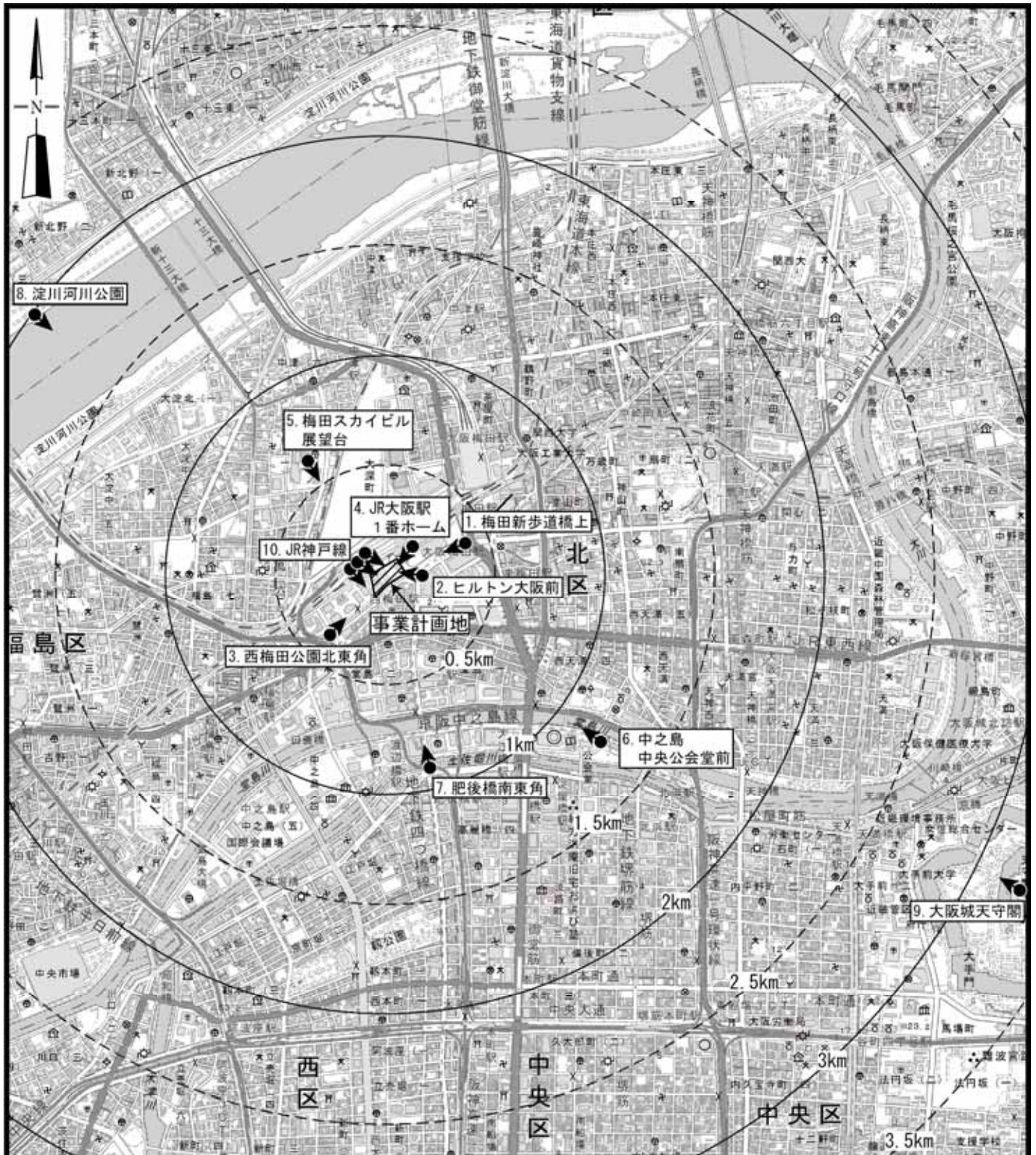
##### 主要眺望地点からの景観の状況

各主要眺望地点からの景観の状況は表 5-12-2 に、主要眺望地点の位置は図 5-12-1(1)、(2)に示すとおりである。

なお、各主要眺望地点からの事業計画地方向の景観写真は図 5-12-2~11 に示すとおりである。

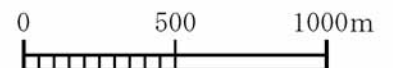
表 5-12-2 主要眺望地点からの景観の状況

区分	番号	地点名	方向	距離	状 況
近景域	1	梅田新歩道橋	東	0.4km	梅田新歩道橋上からの景観であり、事業計画地を東側から眺望することができる。JR大阪駅前及び西梅田地区の高層ビル、道路等が主な景観の構成要素となっている。
	2	ヒルトン前	南東	0.2km	ヒルトン大阪前の交差点からの景観であり、事業計画地を南東側から間近で眺望することができる。道路、西梅田地区のビル等が主な景観の構成要素となっている。
	3	西梅田公園	南西	0.4km	西梅田公園北東角からの景観であり、事業計画地を南西側から眺望することができる。西梅田地区の高層ビル及び道路等が主な景観の構成要素となっている。
	4	JR大阪駅1番ホーム	北東	0.1km	JR大阪駅1番ホームからの景観であり、事業計画地を北東側から眺望することができる。JR大阪駅のホーム、JR大阪駅前の建物及び西梅田地区の高層ビルが主な景観の構成要素となっている。
中景域	5	梅田スカイビル展望台	北北西	0.6km	事業計画地の北側にある梅田スカイビル展望台（地上約173m）からの景観であり、事業計画地全体を北側から眺望することができる。JR大阪駅前、西梅田地区の高層ビル及び線路等が主な景観の構成要素となっている。
	6	中之島中央公会堂	南東	1.3km	中之島中央公会堂前の東洋陶磁美術館側からの景観である。中央公会堂をはじめ、堂島地区のビル、植栽の緑及び道路等が主な景観の構成要素となっている。
	7	肥後橋	南	1.0km	肥後橋南東角からの景観である。四つ橋筋及び四つ橋筋両側に林立するビル等が主な景観の構成要素となっている。
	8	淀川河川公園	北西	2.0km	淀川河川公園の川縁からの景観である。淀川の水面、対岸の河川敷及び大阪梅田地区周辺のビル群等が主な景観の構成要素となっている。
遠景域	9	大阪城天守閣	南東	3.2km	大阪城天守閣（地上約50m）からの景観であり、事業計画地を含む大阪の市街地が一望できる。また、眼下に広がる大阪城公園の緑も景観の構成要素として加わっている。
車窓	10	JR神戸線	西	0.2km	JR神戸線を神戸方面から大阪方面へと走行する列車の車窓からの連続的な景観である。西梅田地区の高層ビル及び線路等が主な景観の構成要素となっている。



●➤ : 景観調査地点

- |       |               |       |               |       |           |
|-------|---------------|-------|---------------|-------|-----------|
| 【近景域】 | 1. 梅田新歩道橋上    | 【中景域】 | 5. 梅田スカイビル展望台 | 【遠景域】 | 9. 大阪城天守閣 |
|       | 2. ヒルトン大阪前    |       | 6. 中之島中央公会堂前  | 【車窓】  | 10. JR神戸線 |
|       | 3. 西梅田公園北東角   |       | 7. 肥後橋南東角     |       |           |
|       | 4. JR大阪駅1番ホーム |       | 8. 淀川河川公園     |       |           |



この地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図（大阪西北部、大阪東北部）を使用したものである。

図 5-12-1(1) 主要眺望地点の位置

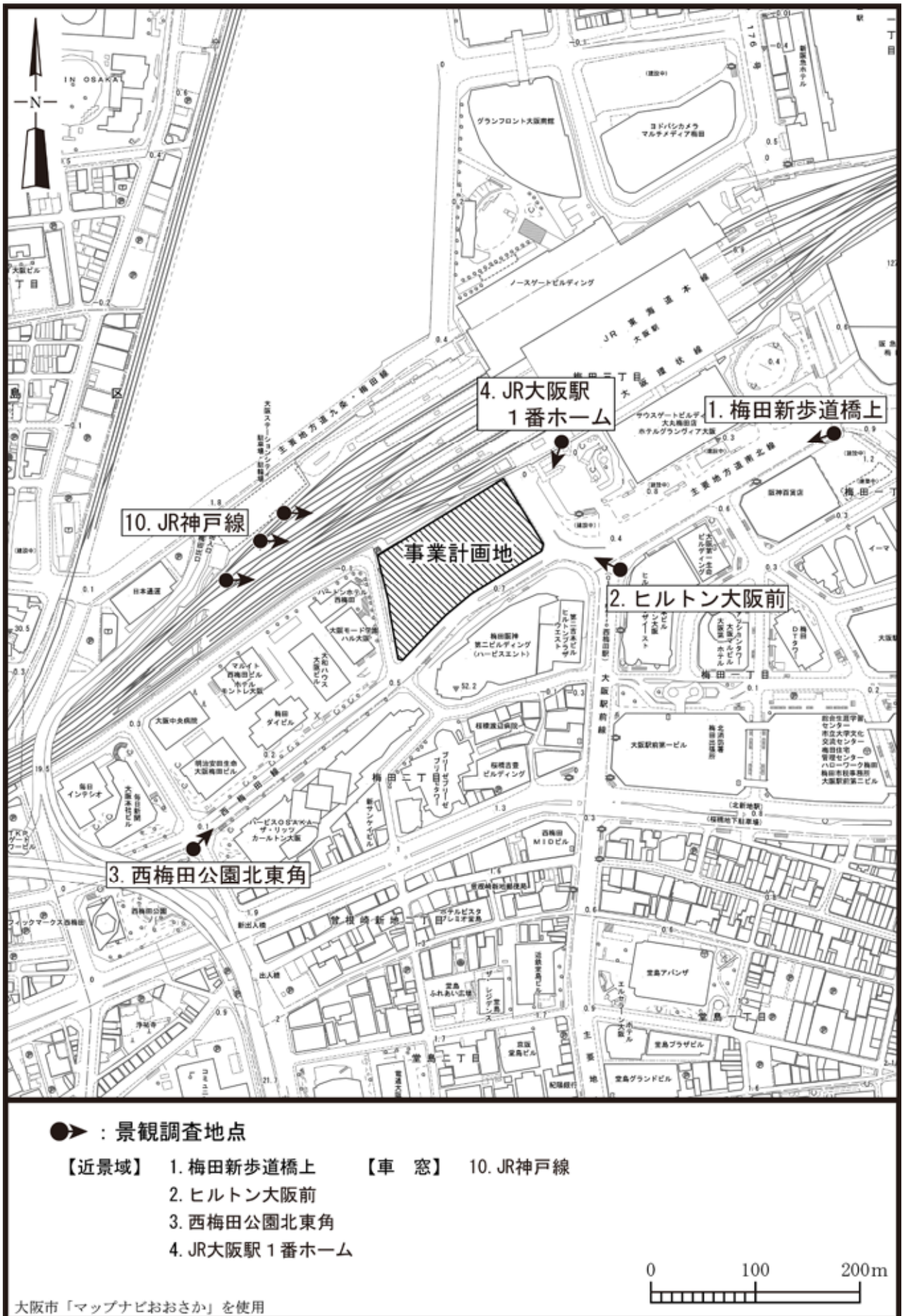


図 5-12-1(2) 主要眺望地点の位置（近景域・車窓）

## 5.12. 2 施設の存在に伴う影響の予測・評価

### (1) 予測内容

施設の存在に伴う影響として、建築物の出現が事業計画地周辺の景観に及ぼす影響について、現地調査結果及び事業計画等をもとに予測した。

予測内容は表 5-12-3 に示すとおりである。

主要眺望地点からの眺望の変化の程度については、建築物等の出現による景観の変化を視覚的にとらえるために、現況調査において選定した主要眺望地点 10 地点からの景観について、事業計画に基づき事業完了後のフォトモンタージュを作成し、予測した。

なお、現況調査後約 10 年が経過しており、事業計画地内や周辺の建物状況等が変化していることから、事業完了後のモンタージュについては、再度景観写真を撮影し、その写真を元に作成した。（再撮影日：平成 30 年 11 月 29 日、平成 31 年 2 月 1 日、4 月 4 日、令和元年 6 月 25 日）

参考として、再撮影した景観写真についてもあわせて示す。

表 5-12-3 予測内容

予測項目	予測地点	予測時点	予測方法
建築物等の出現による主要眺望地点からの眺望の変化の程度	主要眺望地点 ：10 地点	施設完成後	フォトモンタージュ法により将来景観モンタージュを作成し予測

### (2) 予測結果

各主要眺望地点からの、現況の景観写真、施設完成後の景観予測図及び景観の変化の程度は図 5-12-2～11 に示すとおりである。

【現況】



【再撮影】



図 5-12-2(1) 梅田新歩道橋上からの景観（現況）

【施設完成後】



図 5-12-2(2) 梅田新歩道橋上からの景観（施設完成後）

【景観の変化の程度】

区 分	近景域
地点番号	1
地 点 名	梅田新歩道橋上
<p>施設完成後には、計画建物の中層部及び高層部が視認されるようになる。</p> <p>大阪駅南側の駅前空間を構成する周辺建物との調和に配慮した高さで基壇部を構成するとともに、西梅田地区の街並みとの連続性に配慮し、壁面の位置や高さ等の調和を図る計画である。</p> <p>建物の外装は、駅前の新たな顔としてふさわしい、都市的でシンボル性の高いものとなるよう、統一感のある縦基調のデザインにより伸びやかな印象を生み出し、ランドマーク性を高めるとともに、駅前にふさわしい質の高い設えとなるよう、外装材や色彩等に配慮する計画である。</p>	

【現況】



【再撮影】



図 5-12-3(1) ヒルトン大阪前からの景観（現況）



【施設完成後】



図 5-12-3(2) ヒルトン大阪前からの景観（施設完成後）

【景観の変化の程度】

区 分	近景域
地点番号	2
地 点 名	ヒルトン大阪前
<p>施設完成後には、計画建物の中層部及び高層部が視認されるようになる。</p> <p>大阪駅南側の駅前空間を構成する周辺建物との調和に配慮した高さで基壇部を構成するとともに、西梅田地区の街並みとの連続性に配慮し、壁面の位置や高さ等の調和を図る計画である。沿道のセットバック空間についても西梅田地区と調和した設えとし、緑豊かな歩行者空間やオープンスペースを確保し、緑の潤いと賑わいが感じられる魅力あふれる街並みの形成を図る。</p> <p>建物の外装は、駅前の新たな顔としてふさわしい、都市的でシンボル性の高いものとなるよう、統一感のある縦基調のデザインにより伸びやかな印象を生み出し、ランドマーク性を高めるとともに、駅前にふさわしい質の高い設えとなるよう、外装材や色彩等に配慮する計画である。</p>	

【現況】



【再撮影】



図 5-12-4(1) 西梅田公園北東角からの景観（現況）

【施設完成後】



図 5-12-4(2) 西梅田公園北東角からの景観（施設完成後）

【景観の変化の程度】

区 分	近景域
地点番号	3
地 点 名	西梅田公園北東角
<p>施設完成後には、計画建物の南側壁面の一部が視認されるようになる。</p> <p>西梅田地区には既に超高層建築物が立地していることから、計画建物については西梅田地区の街並みとの連続性に配慮する計画である。</p> <p>建物の外装は、駅前の新たな顔としてふさわしい、都市的でシンボル性の高いものとなるよう、統一感のある縦基調のデザインにより伸びやかな印象を生み出し、ランドマーク性を高めるとともに、駅前にふさわしい質の高い設えとなるよう、外装材や色彩等に配慮する計画である。</p>	